

NPO・GIRLS ON THE RUNへの支援

アメリカでは、ランニングを通じて少女たちの健康と幸福そして自信の増進に貢献しているNPOのGirls on the Runに協力しています。

公式スポンサーとして、全米225の支部へのシューズや健康プログラムのほか、ボランティア活動の機会も提供しています。



人材への投資 と社会貢献

アシックスは、スポンサー活動、チャリティー活動、ボランティア活動に努めることで、自らの生活と事業活動の場であるコミュニティに貢献したいと考えています。

また、人材が企業の最も重要な資産であるという考えに基づき、才能を育み、多様性を重んじる労働環境の創出にも力を注いでいます。



シニアの生活改善への支援

日本では、アシックススポーツ工学研究所で培った知見を生かし、高齢化社会に備えて生活の質の向上への貢献を図っています。

全国5カ所で展開している高齢者対象の機能訓練特化型デイサービス施設「トライアス」では、運動機能改善のための機器を備え、支援プログラムを提供しています。

同施設は2015年度のグッドデザイン賞を受賞しました。

Tryus

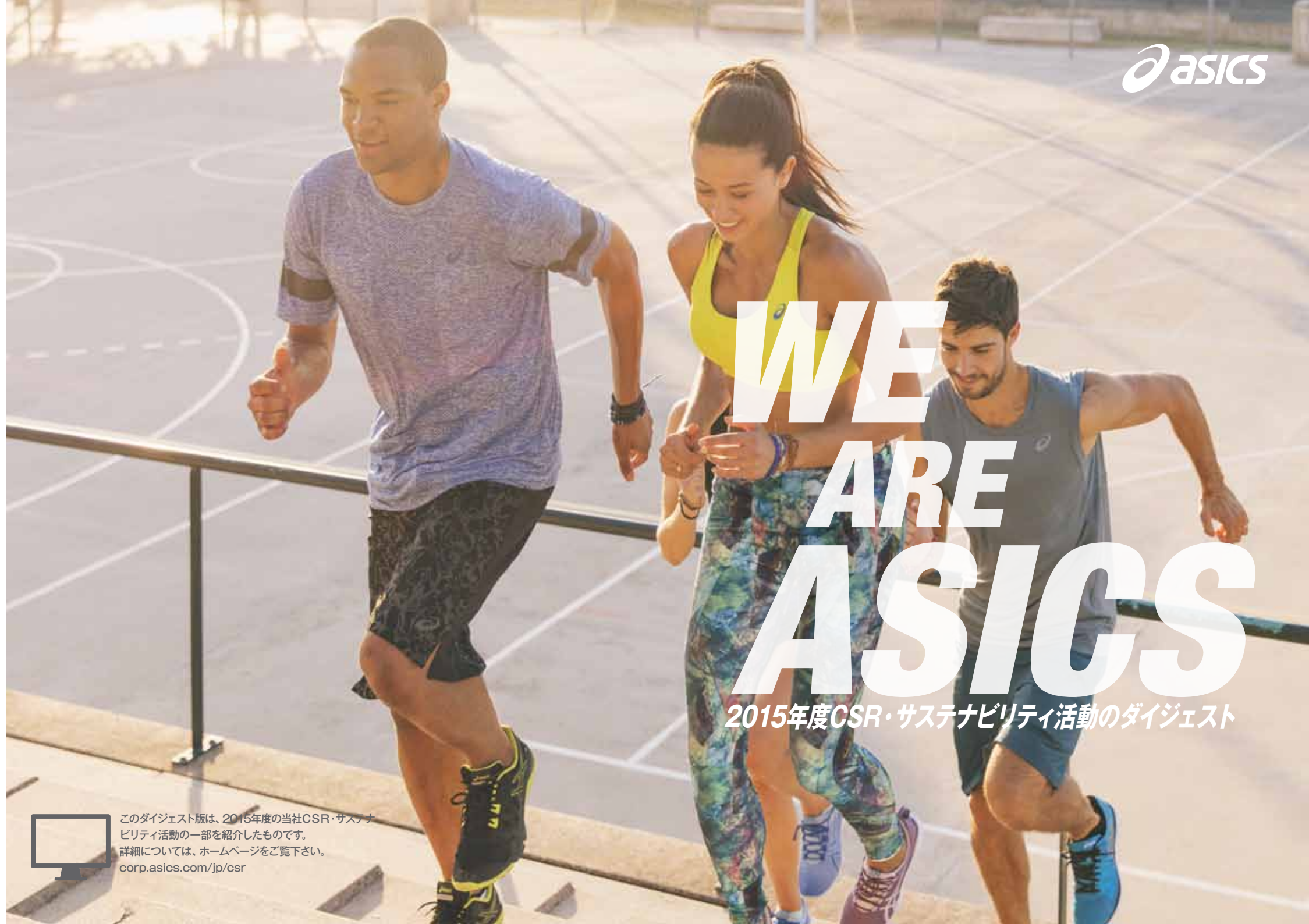
小学校でのタグラグビーの支援

南アフリカ・タグラグビー協会の「Adopt-a-School」プログラムを支援しています。

このプログラムは、小学生にスポーツの楽しみを提供し、健康と自信の増進に役立てるもので、当社は2015年には5つの小学校のスポンサーとなり、1,872人の貧しい子どもにスポーツ用品を提供したほか、コーチによる指導への資金援助をしました。

1872人

タグラグビーのコーチを受けた子ども



asics

**WE
ARE
ASICS**

2015年度CSR・サステナビリティ活動のダイジェスト



このダイジェスト版は、2015年度の当社CSR・サステナビリティ活動の一部を紹介したものです。
詳細については、ホームページをご覧ください。
corp.asics.com/jp/csr

WANTING IT IS NOT ENOUGH

単に望むだけではなく

アスリートでも企業でも、
何かを成したいと単に思うだけでは
十分ではありません。
情熱、献身的努力、知識、克己心、周囲からの
支援が不可欠です。

“ スポーツを通して健康で快適な
社会の持続的発展に貢献すること
はアシックスの責務です。その実現
に向け、60年以上ひたむきに取
組んでいます。

株式会社アシックス
代表取締役社長CEO
尾山基

”



製品とサービスの 創造

アシックスは、アスリートにとってより良い機能を提供するだけではなく、社会と環境
にとってもより良いスポーツ用品を作りたいと考えています。

そのためには、素材の選択から製品の廃棄にいたるライフ・サイクルの各段階での社
会と環境への影響を把握し、管理することが必要です。

消費者への提案

包装の再利用など、社会に貢献できる循環型システム
を消費者の皆様とともに推進したいと考えています。

そのため、アメリカではチャリティー団体のGoodwill
and Give Back Boxと提携しています。

通販サイトから当社製品が配達された際の箱を使って
不要の衣服やシューズ及びその他家庭用品を無料で同団
体に送ることができるもので、それを販売して得られた利
益は職業のあっせんや職業教育などのコミュニティーサー
ビスに還元されます。



サプライヤーのエネルギー効率の向上

CO₂排出量の削減には、自社の直接の企業活動にとどま
らず、サプライチェーン全体を見渡すことが必要です。

当社はこれまでも製品デザインを通じてのエネルギー効
率向上を主体にCO₂の削減を進めてきましたが、2015年は
更に生産現場のCO₂削減の実現可能性を調査しました。

経済産業省が推進する二国間クレジット制度(JCM:Joint
Crediting Mechanism)に基づくもので、マイクライメイトジャパン
株式会社との共同での取り組みです。同省の委託事業として、カン
ボジアとベトナムの委託先工場2カ所で、CO₂を削減しエネルギー
効率とエネルギー需給バランスを改善する仕組みを構築します。

今後、調査結果に基づいてサプライヤーと協議し、CO₂削
減策を実行していきます。また、他の工場にもこの調査結果
を活用する予定です。



社会への影響を把握

複雑なサプライチェーンで当社製品及び製造工程
が及ぼす人権など社会課題への影響を把握すること
も大切です。そのため、2015年度にランニングシューズ
「GEL-KAYANO 21」の社会的側面でのライフ・
サイクル・アセスメント (S-LCA) を実施しました。

これにより、当社の活動が適切であった点と改善を要
する点が明らかになりました。

この知見を基に、サプライヤーとの協働によりリスク
軽減を図ります。



93%

アシックス基準を満たした工場

※2015年度末時点。アシックス基準は国際基準
及び業界基準に連動しています。

132件

2015年度の監査数



サプライヤーと の協力

“ アシックスとの活動を通して、工場全体
のCSRに対する意識が向上しました。

特に、工場の監査と改善指導により、経
営者から従業員まで、全体の理解・意識が
向上したと実感しています。

セミナーでは、CSRの最新動向を知るこ
とができ、大変有意義な機会となりました。

ベトナムのスポーツウエア工場
Teijin Frontier Vietnamからのコメント

”

長期にわたる協力関係

サプライチェーンでのCSRの実現には、長期にわた
る協働が必要です。

継続的な関係を築くことで、労働基準と業界動向へ
の認識を互いに向上させることができます。

2015年は、当社は安全衛生及び労働者の人権に関
するセミナーを開催。主要サプライヤー105社が参加
しました。

ステークホルダーとの協力関係

持続的発展が可能なサプライチェーンは、当社だけ
で構築できるものではありません。

サプライチェーン内だけではなく、NGO、業界団体、
その他の活動組織とも協力関係を結んでいます。

当社は、ILO（国際労働機関）が工場改善のため
カンボジア、インドネシア、ベトナムで展開しているベター
ワーク活動にも加盟しています。